



フランス核実験3度目を強行

フランス政府は10月28日朝世界中の反対世論を無視して3度目の核実験を強行しました。爆発規模は60キロトン以下という発表ですが、ムルロア環礁の海底はすでに無数の亀裂ができ地殻の破壊が進んでいるといわれています。その亀裂をコンクリートで埋めても、将来にわたって核汚染の危険を防ぐ保障にはなりません。世界中の世論に真っ向から挑戦するフランス政府とシラク大統領の傲慢さに抗議しなければなりません、同時に日本政府の対応の生ぬるさを追及しようではありませんか。

いまオランダハーグの国際司法裁判所でおこなわれている「核兵器の違法性」を争う審理に出席して日本政府の証人として7日口頭陳述する平岡広島市長、伊藤一長長崎市長にたいして外務省が「国際法違反」の表現を削除するよう要求したと報道されています。広島・長崎の被爆者や県民の声を代表する両市長の陳述を妨害する外務省の態度は許しがたいものです。

核実験に抗議する土浦市連絡会議が抗議文送付

土浦市内の7団体は10月29日緊急協議の上以下の抗議文をフランス大使館宛送付しました。

抗議文

茨城県土浦市の七団体は、十月二十八日貴国がおこなった再開3度目の核実験に抗議する申し合わせをおこなった。すでに九月六日の再開第1回の核実験以来世界中の世論が明らかにしたように、核実験に関する貴国の弁解は核実験を是認するなんらの根拠もない。第一に核抑止論は核保有国のエゴイズムであり、核戦争の危険を弱めるところか人類破滅の危険を増大させるものである。核兵器は人類と共存できない悪魔の兵器である。また、核兵器が地球の環境を破壊するものであることは明かである。南太平洋諸国の「もしも、ムルロア環礁における核実験が安全であるというならバリの地下で核実験を行うべきである」という主張はもっともな言い分である。

このような国際世論を無視して三度目の核実験を強行したことにたいして抗議するとともに、貴国の核実験の停止を要求し、世界の核兵器廃絶への願いに耳を傾け、核実験全面禁止条約を直ちに締結されるよう求めるものである。貴方が世界の諸国民との友好関係を保ち続けたいと考えられるならば、今からでも今後の核実験を中止し、核廃絶を求める政策に立ち返られることを強く要求するものである。

一九九五年十月二十九日 核実験に抗議する土浦連絡会議
参加団体

平和・民主主義・革新統一をすすめる土浦懇談会・土浦平和の会・新日本婦人の会土浦支部・土浦民主商工会・茨城県歴史教育者協議会県南支部・茨城県高等学校教職員組合土浦支部・いばらきコーポポポの会

ジャック・シラク フランス大統領 殿

10・22百里反戦集会報告

例年より1日遅れで22日(日)おこなわれた百里反戦集会は、約1000名の参加によって成功裏に終了しました。梅原司平のオープニングコンサートの後、参加各団体の代表が沖縄の米兵による少女暴行事件にたいする抗議、安保条約再定義の危険な企み、日米地位協定の改訂の要求、フランスの核実験強行にたいする抗議、百里基地の民間機共用反対などの問題提起と決意表明が行われ、基地正門までデモ行進をおこなって集会を終了しました。土浦からの参加は30名。

行事ごよみ

- 10月29日 フランス核実験に抗議文送付
- 11月17日 土浦平和の会理事会(1中地区公民館)
- 11月18日 県平和委員会常任理事会(水戸平和会館)
- 12月 8日 平和学習会(県平和委員会主催・水戸・ヤドランカが来ます)
- 12月16日 土浦平和の会忘年会(荒川沖駅前 焼き肉の麗華)